

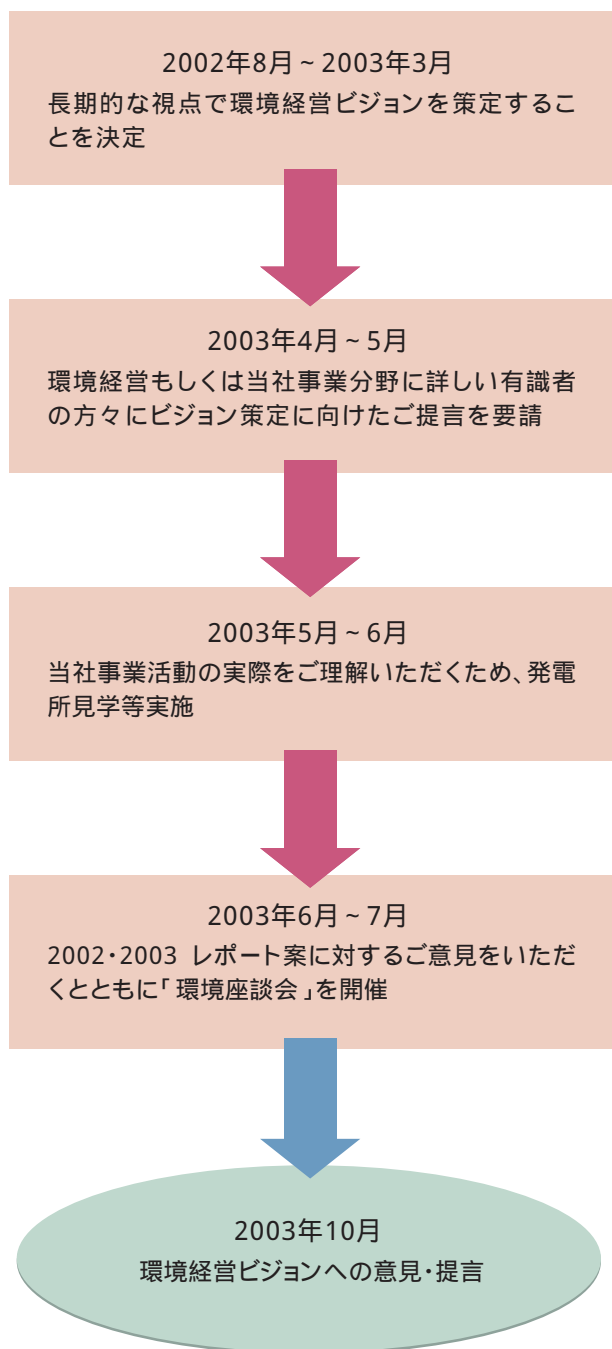


当社への意見

1. 第三者提言

当社は、環境経営ビジョン策定に向けた検討を進めています。そのプロセスとして、当社の取り組みに対し第三者の方からご意見を得ることが大変重要であると捉え、2003 環境・社会行動レポートへのご意見も含め、今回5名の方々へご意見・ご提言をお願いしています。

経緯と今後の予定



第三者意見の必要性

当社は、卸電気事業者であるため電気の最終消費者の方々と直接接することがなく、また特殊会社として一般投資家に株式が公開されていなかったことなどから、発電所立地地域などを除き社会から多様な評価を受ける機会が極めて少なかった会社です。

本年6月に完全民営化が法律的に確定し、株式公開に向けた準備に入ったことを踏まえ、より広く社会に当社の事業活動と環境とのかかわりを知っていただき、当社が社会に期待されていることは何かをしっかりと見極め、民間企業としての成長と発展を期していきたいと思っています。そのため、当社と社会との通訳として、また、当社の姿を社会の目で映し出していただく鏡として、環境経営分野もしくは当社の事業分野に詳しい有識者の方々にご意見・ご提言をお願いしました。

なお、このレポートの内容に対してもいろいろなお意見を得て、できるかぎり反映しました。



環境座談会

お名前と主な経歴

お名前	主な経歴
川村雅彦さん	(株)ニッセイ基礎研究所 上席主任研究員 環境経営格付機構格付委員 日本環境経営大賞事務局員
筑紫みずえさん	(株)グッドバンカー 代表取締役社長 経済産業省産業構造審議会環境部会委員 環境省中央環境審議会委員
崎田裕子さん	ジャーナリスト・環境カウンセラー NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長 環境省中央環境審議会委員
猿田勝美さん	神奈川大学 名誉教授 環境省中央環境審議会 臨時委員 横浜市環境審議会 会長
玉井信行さん	金沢大学教授、東京大学 名誉教授 国際水工学会 第一部 議長 河川環境展 2003 実行委員長

(注)掲載順不同

環境座談会

2003 環境・社会行動レポートをテーマに5人の有識者による座談会を開催しました。

開催年月日 2003年7月16日(水) 13:45～16:10
 場所 当社本店会議室
 当社出席者 大野常務、北村取締役
 (環境行動推進会議議長、副議長)



環境座談会

【要約】

情報開示のあり方 誰に読んでもらいたいのでしょうか？

(川村さん) まずは、レポートを読みたい人、つまり環境経営に関心のある人や評価する人を意識して作ると良い。企業の社会的責任の観点からは、従業員自身にしっかりと読んでもらうことも不可欠です。

(筑紫さん) 会社が誰のためのものかを考えると、全ステークホルダー向けに作るべきと思います。女性や学生なども読み手の一人であることを忘れてはいけません。また、このレポートは社会的責任投資の視点を持つ投資家にとってアニュアルレポートと同様に重要です。

(崎田さん) これまで使うことが当たり前と思われ、目に見えない電気エネルギーの大切さを再認識し、社会全体が生活や事業のあり方を見直す時期に来ています。その意味で全ステークホルダーに発信する姿勢がよいと思います。エネルギーにかける思いを社会に伝えてください。

(猿田さん) 報告書の読者は限定できない。誰に読んでもらっても、信頼される情報の「正確さ」「わかりやすさ」が非常に大切です。

(玉井さん) 誰に読んでもらいたいのかを見出すには、自分がどうありたいかを決めることです。地球温暖化問題への対応を含む中長期的な目標を定めた「環境経営ビジョン」を明確にすることです。

【要約】

J-POWERへのメッセージ これからに期待すること!

(筑紫さん) デビュー(株式公開)にあたりロードショウ 投資家への説明を成功させるためレポートは大切なシナリオで、他社にはない取り組みと情報開示に努め、独自性を出して下さい。

(玉井さん) 今後はJ-POWERとしての主体性をはっきりと示すべきです。自分の取り組みの何が優れているのか、何が一番なのかを知ることからマネジメントを充実させて欲しい。

(崎田さん) 地域で環境報告書を読む会などを実施し、きちんと説明する会社であることを示すべきです。サイト情報や働いている人の汗や顔が見える情報の公開が必要です。

(猿田さん) 地域住民と海外に向けた発信の両方が重要です。J-POWERが、地球温暖化対応も含め、高い技術力を使って、発展途上国に貢献するためにも、積極的な姿勢を表して欲しい。

(川村さん) ビジョンの明確化とこれまでの実績、課題が環境報告の大事なテーマ。これをわかりやすく工夫して書くことが信頼性・透明性を高めていきます。これからの「環境経営」に期待します。

当社からひとこと

当社への期待を込めた2時間以上に及ぶ熱心な意見交換、ありがとうございました。

皆さまの貴重なご意見を真摯に受け止め、これからの環境経営に活かしていきたいと思っております。



大野議長



北村副議長

ご意見

座談会の意見交換後に、5人の方々から個々のご意見をいただきました。当社は、座談会や個々の意見を今後の

環境経営ビジョンや来年度レポート編集の中で活かしていきます。

(注)掲載順不同

お名前・主な視点	ご意見
 <p>川村 雅彦 さん ・環境経営アナリスト ・環境経営格付機関 ・CSR研究者</p>	<p>株式上場を控え、環境・社会行動レポートから環境経営報告書への脱皮を期待します。「連結環境経営」導入と信頼性向上のためには、記載内容とりわけ数値データの報告範囲を編集方針で明確にすべきです。</p>
 <p>筑紫 みずえ さん ・株主・投資家 ・国際社会</p>	<p>エネルギーと環境という経営のテーマがビジュアルで、わかりやすくまとめられている。 グリーンインベスターの視点を意識し、環境経営が競争力につながる仕組みが見える報告書をめざすこと。環境関連知的財産を戦略性と技術的優位性の面から評価し、環境会計に位置付けること。海外への技術移転実績も、情報公開し、経営戦略的な優位性を見せることが必要。</p>
 <p>崎田 裕子 さん ・市民 ・生活者</p>	<p>私たちの暮らしを支える事業の重要性とともに、火力発電によるCO₂排出、水力発電での環境影響等を抑える取り組みなど、具体的に納得いたしました。 今後は「レポート」を読む会や自然体験活動など、地域や消費者との積極的コミュニケーションで、顔が見える信頼構築に努めて下さい。</p>
 <p>猿田 勝美 さん ・大気環境専門家 ・地域社会</p>	<p>企業理念の実現に向け、企業の社会的責任(CSR)も踏まえ、グループ企業を含めて環境方針に基づくPDCAを着実に推進し、蓄積された技術やノウハウを国内外に提供(情報公開、技術移転など)し、信頼性向上に努めてもらいたい。</p>
 <p>玉井 信行 さん ・河川環境専門家 ・国際社会</p>	<p>J-POWERとしての主体性を明快に示すことが重要。例えば、何が日本一、世界一であるのかという観点から見直すことがよい。CO₂排出量に関しては、企業、業界、国を通しての総合的な位置付けが求められる。</p>

2. 読者意見

2002 環境行動レポート(2002年8月発行)に対し、読者の方々よりご意見をいただきました。

当社は、これらのご意見を今後のレポート作成や環境経営推進への大切なメッセージとして受け取りました。既にその一部については参考とさせていただきますが、長期的に取り組むべき課題についても、今後の業務に役立ててまいります。

環境行動レポート

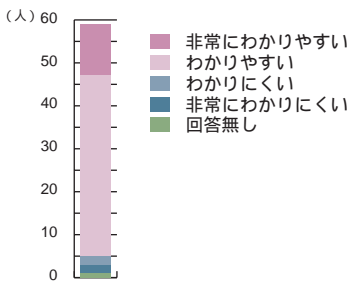
主なご意見	反映内容
準拠しているガイドラインの記載。	編集方針に記載しました。
環境方針に対する実績とその評価の充実。	2002年度実績の中に評価も加えました。
ケナフとはいえ、用紙の厚さに疑問。	ケナフ紙の厚さを、薄いものに変えました。
字が少し小さい。データ類が少ない。	字を大きくし、廃棄物等のデータ数を増やしました。
定量目標と実績の関連で不明な点あり。(本店ビル電灯と紙くず発生量。)	削減目標を%で表示していました。具体的な数量で表示いたしました。
リスク管理・環境事故について記載。	日常管理および緊急時対応、法令遵守で記載しました。
京都議定書・メカニズム活用に関する標記の充実化	記載内容を充実させました。

当社の環境保全活動

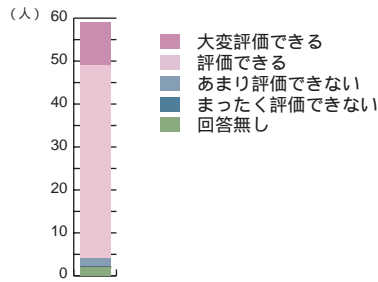
主なご意見	
中長期的な目標策定と取り組み(兵庫56才男性他)	機器のエネルギー効率改善(福岡47才男性)
国内外での自然保護・植林事業・緑化推進(埼玉35才男性他)	資源の再生・再利用の推進(広島41才男性他)
CO ₂ 固定対策の研究推進(東京46才男性)	環境技術・設備の国内外への移転と協力(東京23才男性他)
京都メカニズム活用(46才男性他)	再資源化によるコスト増対策検討(沖縄43才女性)
温暖化防止における国内対策の重視(兵庫60才男性)	見学会等による啓蒙活動の推進(48才男性他)
	各種発電方式の長短所等の情報提供(青森女性)

アンケート集計結果(2003年6月末時点:回答者計59名)

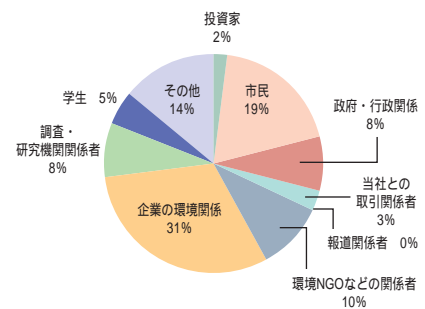
Q1. レポート所感(わかりやすさ)



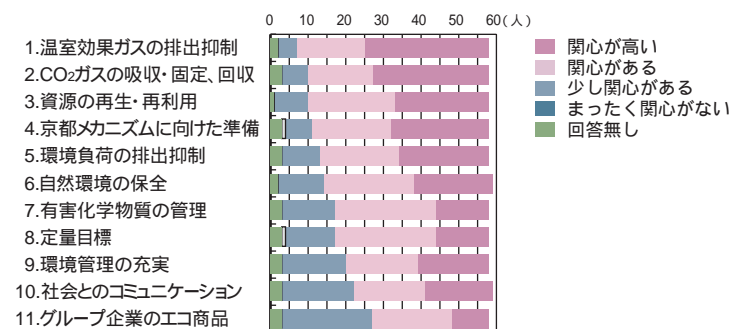
Q2. 環境問題への当社の取り組み



Q3. レポートをどのような立場で読んだか
(複数回答あり、延べ回答数:63人)



Q4. 環境保全活動での関心項目



貴重なご意見、どうもありがとうございました。
今後のJ-POWERの環境・社会活動と報告書の改善に役立ててまいります。